

# かいほ

# ジャーナル

Japan Coast Guard Journal

[海上保安庁情報誌]



特集

本州最南端の海上保安署と  
海上保安庁唯一の水路観測所

54  
2013 Spring

海上保安庁  
JAPAN COAST GUARD

# かいほジャーナル

表紙



串本海上保安署の職員

Vol. 54

特集

## 本州最南端の海上保安署と 海上保安庁唯一の水路観測所

本州最南端の地で豊かな海を守る  
串本海上保安署

4

人工衛星にレーザー発射し日本の基準点を定める  
下里水路観測所

8

グラビア

日印海上保安機関連携訓練

1

年末年始特別警戒及び安全指導

1

「くまモン」と「まゆまる」が一日海上保安官に就任

2

全国初!一般公募によってデザインを採用した  
大槌港灯台の点灯式

2

海上保安庁音楽隊 in MURORAN

3

日印海上保安機関長官級会合実施

3



くしもと大橋と巡視艇むろづき



レーザー測距観測で使用する望遠鏡

トピックス

管区バージョン、ご当地バージョン  
「うみまる」「うーみん」の紹介

10

NEWS FLASH ニュースフラッシュ

12

インフォメーション  
大切な命!自分で守る~海上保安庁からのお願い~  
海上保安大学校・海上保安学校採用試験

裏表紙



COAST GUARD JOURNALS



## 日印海上保安機関連携訓練



11月21日、東京湾羽田沖において日印海上保安機関連携訓練を行い、巡視船「しきしま」(同搭載機)、巡視艇「きりかぜ」及びインド沿岸警備隊から巡視船「サムラート」(同搭載機)が訓練に参加しました。両国間で

の訓練は、連携・協力関係の構築を推進するため平成12年以降定期的に行われており、11回目となる今回も海賊対策訓練や航空機連携訓練などを通して、日印双方のあつた連携の模様を見せていました。



## 年末年始特別警戒及び安全指導

海上保安庁では平成24年12月10日から平成25年1月10日までの間、年末年始特別警戒及び安全指導を実施しました。  
年末年始は帰省、観光などで海上輸送が増加するため、安全確保を目的として、旅客船やカ

ーフェリー、旅客ターミナルを対象に犯罪・テロ警戒を行っています。また、船舶運航者に対して見張りの徹底などの安全運航指導を行うとともに、乗船者の海中転落事故防止対策の指導も行っています。





## 「くまモン」と「まゆまる」が一日海上保安官に就任



12月13日、第八管区海上保安本部は、平成23年の「ゆるキャラグランプリ」の優勝者である熊本県営業部長「くまモン」と、京都府広報監「まゆまる」をお迎えしました。  
第八管区海上保安本部長から一日海上保安官に任命された「くまモン」と「まゆまる」は、海上保安庁のイメージキャラクター「うみまる」、「うーみん」と一緒に海上保安業務や118番のPR活動を行いました。



## 全国初！一般公募によってデザインを採用した大槌港灯台の点灯式

12月13日、岩手県大槌漁港の入口に浮かぶ蓬萊島（通称…ひょうたん島）に設置された大槌港灯台の点灯式を行いました。  
この灯台は、東日本大震災の津波で倒壊しましたが、復旧にあたり、震災復興のシンボルとして一般の方々に灯台のデザインを募集し、多数の応募の中から、地元大槌町の岩間みな子さんのデザインが採用されました。また、灯台の記念額（灯台の表札）の文字は、地元小学生の黒澤宏太さんによって書かれました。





## 海上保安庁音楽隊 in MURORAN



12月22日、室蘭港開港140年記念行事の一環として海上保安協会室蘭支部及び室蘭海上保安部主催による海上保安庁音楽隊コンサートを実施しました。コンサートには多数の応募の中から抽選で決定した室蘭市民

の方々など約1,300名にご来場いただきました。コンサートでは、今年度で廃校となることと決定している室蘭市立港南中学校の合唱部との共演もあり、市民のほか多くの方々にコンサートを楽しんでいただきました。



## 日印海上保安機関長官級会合実施



1月21日、本庁において北村海上保安庁長官とインド沿岸警備隊ムラリダラン長官による「日印海上保安機関長官級会合」が行われました。本会合では、平成23年1月の長官級会合で合意したソマリア

海賊対策に係る連携強化の取組みを継続するとともに、両国がメンバーとなっているアジア海上保安機関長官級会合において、積極的にリーダーシップを発揮していくことに合意しました。

特集 本州最南端の海上保安署 串本海上保安署

# 本州最南端の地で 豊かな海を守る

和歌山県南部、太平洋に突き出た本州最南端の地、串本町。豊かな自然に恵まれた観光名所でもあるこの地域には、地元漁師だけでなく県外からも多くの漁船や釣り人が訪れる。また太平洋に行く船の通航路としても賑わっており、人々の生活に密着した海の姿を見せていた

取材・文 / 中島敦 (オンサイト)



本州最南端の串本町。北緯33度に位置し、これは八丈島とほぼ同緯度となる。この付近は“台風の通り道”ともなっている。2011年の台風12号は和歌山県内で多いところでは1800mmもの降雨を記録し大きな被害をもたらした。



## 目立つ釣りの事故

第五管区海上保安本部田辺海上保安部  
串本海上保安署は、本州最南端の地、和歌山県東牟婁郡串本町に位置する。湾を挟んで目の前には潮岬と、そこから、くしもと大橋で結ばれた紀伊大島の景観が広がる。リアス式海岸で複雑に入り組み、周辺は観光地として親しまれているだけでなく、漁場にも恵まれている。マグロ、カツオ、伊勢エビなどの水揚げがあり、人々の生活は豊かな海と深く結びついているのだ。

串本海上保安署には、署長以下5名の職員が勤務する。また、PC型巡視艇『むろづき』が配備されており、2クルーが1年365日交替で勤務している。

この地域に目立つ海難が磯場での人身



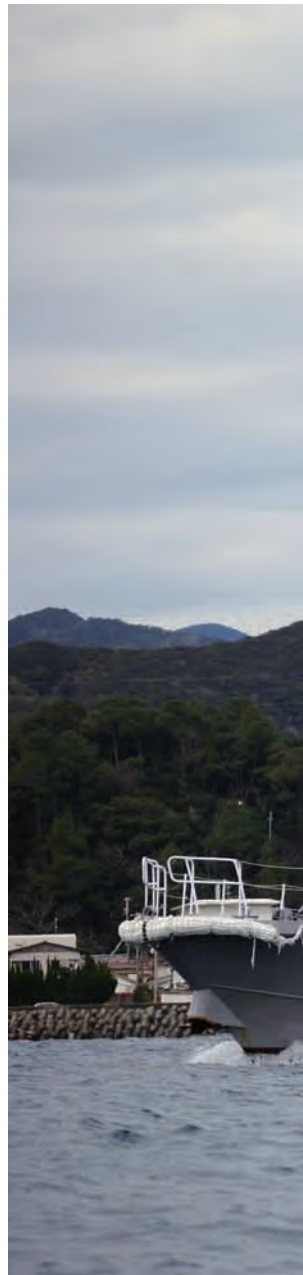
お話を伺った矢野署長。串本の勤務は3回目を数える。



釣り人にとって磯場は絶好のポイントとなる。陸からのアクセスが難しい場合は渡し船でポイントに向かう場合も多い。高波には細心の注意が必要だ。

事故だ。釣り人が誤って、あるいは波にさらわれて海に転落する、というケースが後を絶たない。また好漁場に恵まれているが故の密漁取締りも欠かすことができない。さらにこの海域は貨物船や漁船、それに観光船が頻繁に行き来するため船舶海難にも細心の注意が必要だ。太平洋を航行する船は、南に突き出した潮岬を掠めるように最短距離で航路を取り、この海域に集中するからだ。

「漁師さんにしても釣り人にしても、



地元の方は減多に事故は起こしませんが、県外から来られる方は注意が必要です」と説明するのは串本海上保安署の矢野正行署長だ。太平洋に面したこの地域は外洋の影響を受けるため、波の穏やかなきにも突然「一発波」と呼ばれる高波が発生することがある。それを知らない釣り人が波に飲まれるケースが多いのだ。

万が一海に落ちてしまったとき、ライフジャケットの着用が生存率を左右する重要なポイントとなる。自分は泳げるかと過信する人もいるだろうが、荒れた

波間から磯場や防波堤に上がることの難しさは経験した人間でなければイメージしにくいだろう。

「ですから、釣り人に対して注意を促し、ライフジャケットの着用を訴える看板を設置しています。従来、設置場所は釣りのポイント付近を選んでいましたが、これからは幹線道路など、より目立つ場所を選んでいく予定です」と矢野署長は、今後さらに積極的な対策を講じていくと説明した。

ところで和歌山県南部と言えば、台風の通り道」として知られるエリアだが、

## 大事故発生への対応を念頭に置いています 城山 啓助 (37) ■巡視艇むろづき 主任航海士



串本は潮岬があるため貨物船の航行が激しい地域ですので、いざ事故発生となると大事故に繋がる可能性が高いと感じています。そういった事故に対応するための技術の習得を欠かすことはできません。巡視艇『むろづき』には潜水士としての経験を積んだ職員も乗船しています。昨年船舶同士の衝突事故がありました。幸い大きな被害には繋がらなかった。ただ、衝突具合によっては海洋環境に影響を及ぼすような大きな被害が発生した可能性はありました。この辺りは好漁場でもあるので、そうなったら被害は大きかったでしょう。

神戸や大阪、姫路などと比べると外洋に面しているため担当海域は非常に広くなります。昨夏、エンジントラブルが発生した漁船を曳航しましたが、外洋での経験はここならではのものです。



意外にも台風による事故はそう多くないという。地元の人々は台風の力を知り尽くしているだけに、その対応にも慣れてきているからだ。とはいえ、土砂崩れなど激

太地町では毎年9月から翌年4月にかけて小型捕鯨の追い込み漁(通称イサナ漁)を営んでいる。漁の時期には反捕鯨団体の活動家が多数出入りするため、第五管区海上保安本部では鯨類追込網漁業警戒本部を設置し、和歌山県警察と連携して警戒にあたっている。田辺海上保安部には現地警戒本部を、太地町内には串本海上保安署の臨時駐在所を設けてゴムボートを配備。巡視船艇でのパトロールと併せて違法行為を未然に防止している。



しい自然の猛威による被害は避けようもない。2011年9月にこの地を襲った台風12号は、多いところで年間降雨量に匹敵する1800mmという驚異的な雨量で土砂崩れなど多大な被害をもたらした。この時、新宮市や那智勝浦町など交通が寸断された地域に串本海上保安署の職員2名が駆けつけ、飲料水が枯渇していることを確認。巡視船からの給水活動に結びついた。

また串本町の東に位置する太地町では、古来より鯨やイルカを狙うイサナ漁が盛んに行われているが、これに反感を抱く反捕鯨団体などの活動からも目が離せないことから陸上のみならず、海上の警戒を怠ることはできないという。

### 湾内、外洋を隈なくしよう戒

串本海上保安署の巡視艇『むろづき』は、東は第四管区海上保安本部との境界となる熊野川、西は田辺海上保安部との境界までをしよう戒する。一見すると狭いエリアにも思えるが、前述のように釣り人や漁師の安全確認や密漁のチェックなど、入り組んだ海岸線を進みひとつひとつの湾内で丁寧な巡視を繰り返す。

取材日、『むろづき』は、くしもと大橋をくぐって串本港を出ると、まずは進路を西に取って本州最南端の地である潮岬付近のしよう戒にあたった。貨物船、漁船、そして遊漁船と交通量は多い。反転して東へ進路を取り、管内で最も東の

**一日も早く、使える人材になりたい**  
田古一徳(21) ■巡視艇むろづき 機関士補



海上保安学校を卒業し、昨年4月から巡視艇『むろづき』に乗船しています。身内に海上保安官がいたのが入庁のきっかけです。安全指導で漁港などに行き、釣りをされている方など自分よりも年配の方に話しかけたりしますが、最初のうちはどう話しかければいいのか分からず緊張しました。でもこっぴど緊張すると相手にもそれが伝わってしまいます。最近は「何が釣れますか?」と話しかけるなど、いろいろ工夫して大分慣れてきました。相手の方から「いつもご苦労さん」などと声を掛けていただくこともあり、人と関わる仕事を選んで良かったと感じることもあります。海上保安学校を出て1年も経っていませんが、まだまだ現場で戸惑ったり、先輩に質問してしまうことがあります。早く現場で使える人材にならなければと感じています。現場では不測の事態が起こったりしますが、そういう時に機転が効く人になりたいですね。

港である新宮港方面へと向う。

紀伊大島の南岸は険しい崖が続いているが、その海岸線にチラホラと釣り人の姿が見える。陸上からアクセスするのは難しいので、渡し船でポイントに赴き、帰りもピックアップしてもらうのだ。トルコ軍艦遭難慰霊碑がある紀伊大島東端



洋上から本州最南端の地である潮岬、潮岬灯台を望む。

を通過、左手に海岸線を見ながら太地湾、森浦湾、勝浦湾、さらに天満湾と巡る。

新宮港では無人の漁船を発見。しばらく様子を窺うと、少し離れたところに浮きがあり、素潜り漁をしていることが確認された。「ひとりで漁をされていると、誤って海に落ちてしまう人もいますから」と、三好隆志船長は漁師の無事を確認してから港を離れた。

帰路の勝浦湾口ではマグロ漁船が停止しているのを発見。気のせいか船体が傾いているように見える。機関の故障などトラブルの可能性もあるので、声をかけようかと思った矢先、マグロ漁船は何事もなかったかのように進み始めた。

「沿岸には釣り人や漁船も多いですし、密漁も少なくありません。海側を見れば貨物船など外国船も多く行きかっている。不審な動きをしている船がないか、





湾内で見かけた無人の釣り船。しばし待機して素潜りの漁師を確認する。

常に気を使っています」。

釣り人の事故、漁船のトラブル、密漁、そして外洋に行く船舶の事故……『むろづき』の乗組員は、穏やかに見える海に厳しい視線を巡らせ、串本港へと戻った。

### 懸念される南海トラフ地震に備えて

この日は湾内や沿岸部を巡った巡視艇『むろづき』だが、実はもうひとつ、重要な役割がある。いざ南の海上で事故が発生した場合には、本州最南端に基地を構えているという立地条件から、第一陣として現場に駆けつけることになるのだ。遥か沖合い、時には帰路の燃料が足りなくなるような所まで駆けつけなければならぬことも。「そういうときは、帰りは燃料の消費を抑えるために低速で戻ることも考えます」と矢野署長。「厳しい仕事を終えた後だけに、早く帰してあげたい気持ちはありますが、一刻も早く現場に到着するためには仕方ありません」。

ん」。

またもう1点、矢野署長はこの地域の特徴として南海トラフ地震への対応についても付け加えた。「今後30年以内の発生確率が高いとされる南海トラフ地震ですが、地形上、この地域は津波に非常に弱いと言わざるをえません。湾内にいる船は軒並み被害を受けるはずで、それは巡視艇も例外ではありません。地震発生時に運良く航行していた船は助かる、といった程度でしょう。湾に隣接しているこの保安署も、なるべく早い時期に高台への移転を検討しています。被災地になった場合、まずは我々が活動できる拠点が必要ですから」。

自然に恵まれ、美しく豊かな本州最南端の地で、串本海上保安署は南の海の安全と安心を守り続けている。

串本港に停泊する巡視艇『むろづき』の前で。三好船長以下、『むろづき』の乗組員。

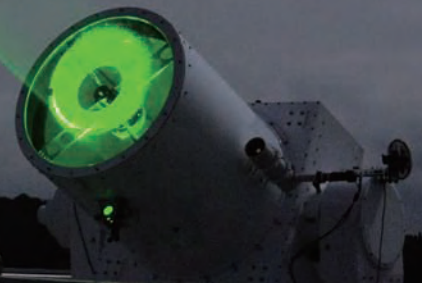


# 人工衛星にレーザー発射し 日本の基準点を定める

海上保安庁の重要な任務のひとつである海図作製  
レーザー測距観測は海図の基準となるだけでなく、  
世界の緯度経度データの維持にも貢献している



黒川所長（左）はじめ4名の観測所員たち。



## 本土基準点を定めるというミッション

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町下里にある下里水路観測所は、人工衛星によるレーザー測距観測（SLR）を行う海上保安庁でただ一つの水路観測所だ。昭和57年にレーザー測距観測を開始し、今年で32年目を迎えた。

レーザー測距観測とは、地上局から人工衛星にレーザー光を当てて、戻って来るまでの往復時間から地上局と人工衛星間の距離を精密に測定するもので、ここで測定したデータを基にして海上保安庁が作製する海図の基準点（本土基準点）が定められている。日本の大陸棚拡大申請や地震による海底地殻変動の監視に不可欠な測定の基準点は、このレーザー測距観測が基準となっているのだ。また下里水路観測所の観測データは、日々国際機関であるILRS（国際レーザー測距事業）に送られ、地球座標系の維持に活用されている。現在、地球上に点在する世界50箇所のSLR局が、継続的に観測データをILRSに提供している。

海上保安庁海洋情報部の仕事には、海図の作製、海洋観測、航海安全情報の提供など下里水路観測所内に設置された本土基準点、日本の海図の経緯度は、この標石が示す本土基準点の経緯度を基準としている。



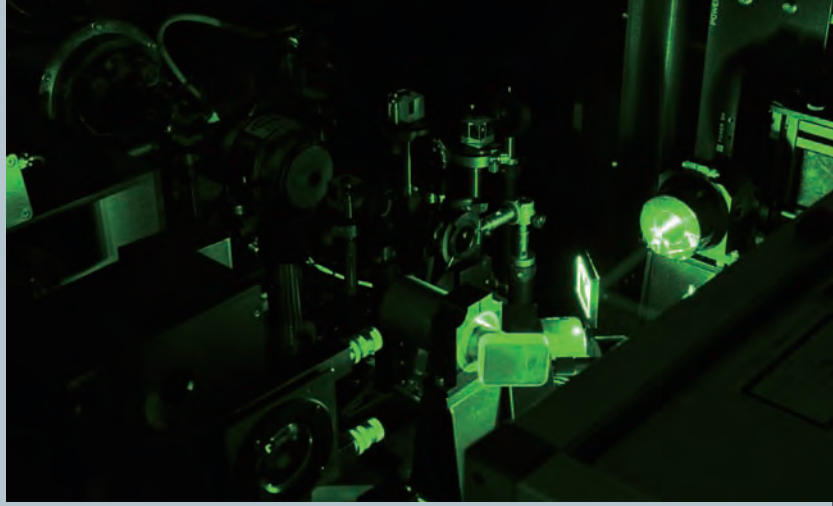
どが挙げられるが、海図の基準となる緯度経度は、かつて日本測地系によって定められていた。

測地系とはその場所を定める「住所のつけ方」、番地のようなものだが、その住所となる緯度経度は、実は測地系によって同じ地点でも異なる緯度経度を示している。海図はこの国の船舶でも使用できるように世界共通の測地系によって作られる必要があるため、日本でも日本測地系から世界測地系に移行した。その際、従来の経緯度データと新しいデータには数百メートルもの違いがあったという。

下里水路観測所は、日本測地系から世界測地系に変換する際に、レーザー測距観測によって本土基準点の位置を正確に測定し基準点を定めた。また、この位置は一定ではなく、プレート運動をしているため、レーザー測距観測を続けることにより常に正確な位置を把握することができる。実際、下里は、ユーラシアプレートに対して西北西に年間2・9cmの速度で移動を続けている。



所員は、レーザー光を発射しながら、手動で衛星を探し出す。



レーザー発振器。ここで発振されたパルスレーザーを増幅して望遠鏡に送る。出力60mJ（ミリジュール）、パルス幅20ピコ秒、発振回数5回/秒。ちなみに60mJとは1ワットの電球を0.06秒点灯したときのエネルギーに相当。1回のレーザー発射時間は、パルス幅20ピコ秒だが、1ピコは1兆分の1なので1000億分の2秒となる。この値は極めて小さいものの、仮に1秒間連続してレーザーを出力すると300万キロワットとなり、これは100w電球3,000万個に相当する。当然のことながら極めて繊細な機器のため温度、湿度の管理やメンテナンスが欠かせない。

## はるか上空の人工衛星に レーザー発射

では、具体的にその観測はどのように行われているのか。基本的に観測は2名1組で行っている。勤務時間である朝8時30分〜17時15分までの日勤と、夕刻から夜間までの夜勤の2組に別れ、日々の業務を遂行している。

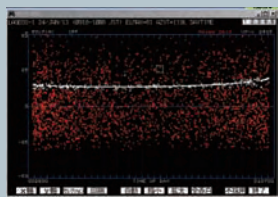
2名のうち1名は機器の操作を行い、人工衛星にレーザーを発射する。対象となるのはレーザー反射鏡を搭載し、地球上空500kmから2万kmの軌道にある人工衛星24個で、秒速8km以上の速度で動いている。これらの人工衛星のおおよ

その位置は、軌道予報値から把握できるものの、最終的にはマニュアル操作で見つけ出す必要がある。時によってこれが非常に困難だという。なお、上空に向けてレーザーを発射するため、残る1名は上空を飛ぶ飛行機などに当たらぬように監視警戒を続ける。

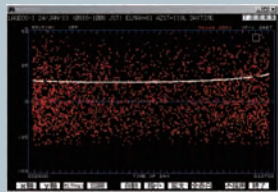
測距精度は、実に上空6000kmの人工衛星に対して約1cmである。人工衛星に反射して返ってくるまでの時間を計測して距離を求めるわけだ。とはいえ、より多くのデータを得るためには空気が澄んでいることが求められ、空気の澄んだ晴天率の高い冬場は観測に最適な季節で、1日で20以上のデータを観測する日も多い。一方、夏場、特に梅雨時などは観測できるデータの数は一桁まで落ち込むこともあるという。雨の日は一切、観測は不能だ。

「室内は年間を通じて一定の温度・湿度に保たれていますが、冬場の外での監視は大変です」と黒川隆司所長は語る。「4名しかいないのでひとりが風邪をひくだけでシフトに影響が出ますから。もう少し人員を増やすことができれば、より多くのデータを集めることができます」。

ILRSでは、各国の観測所に対して



昼:データ処理前



昼:データ処理後



夜間:データ処理前

日中のデータには無数のノイズが写り込むため、細かい手作業でノイズを除去しなければならない。条件が良いときの夜間のデータにはノイズは少ない。(白が採用、赤が不採用のデータ)

年間1500のデータ測定を求めている。下里水路観測所は昨年、約1800のデータを観測したが、データの精度、数共に、今後さらに向上していきたいという。そのために黒川所長は、「毎日の観測日報を必ず書き、翌日の担当がそれを見て状況を把握し機器を調整したりしています。地道に観測を重ねることで少しずつデータの精度を上げており、ラジオスという人工衛星を例に挙げれば、2004年には20mm前後だった精度は10mmを切る水準にまで高めてきました」と説明する。最後に今後の目標として「観測所であるからには、より多く、より精度の高いデータを取りたい。ここで取ったデータが座標系となり、測地に役立つのです」と締め括った。



下里水路観測所では施設の一般公開や天文観測会を開催している。昨年5月には金環日食、6月には金星の目面経過の観察を地元小学生を対象に実施した。

## きれいなデータが取れたとき、手応えを感じます 藤沢 美幸(27) ■下里水路観測所 所員



海上保安官というと海猿的なイメージが強いのですが、私はもともと海洋情報部に入りたくて海上保安学校に進みました。現場で海のことを調べたい、というのが希望でした。本庁の大陸棚調査室や第五管区海上保安本部海洋情報部測量担当などを経て、昨年4月から下里水路観測所に勤務しています。

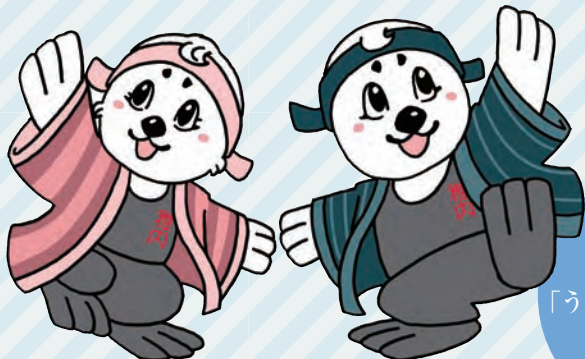
日々の観測ですが、まずはレーザー発振器の保守点検や暖機に始まり、天候が良ければそのまま観測に入ります。観測は雨が降ったらもうダメ。季節や天候の良し悪しにも左右されますが、その場ですぐにデータが取れているのを自分の目で見て実感でき

るのはうれしい点ですね。特にデータが良く取れた時は、『ああ、今日はきれいに衛星の測距データが取れたな』と手応えを感じます。ただ、前にいた測量担当では船に乗って調査に出かけることが多かったので、ここでは、あまり動かずに籠もっているという印象もあります。

下里は、車でなければ移動にも苦労しますし、稀に近所で鹿が網に引っかかっていたりするような場所ですが(笑)、それも慣れてきました。元々神社にも興味あったので那智大社にも行きましたし、今度は熊野古道を歩いてみよう、と計画中です。

# 「うみまる」&「うーみん」の紹介

## 第一管区 海上保安本部



稚内  
海上保安部

ソーラン  
「うみまる」「うーみん」



第一管区  
海上保安本部

スキーをする  
「うみまる」



間宮林蔵に  
扮した  
「うみまる」

稚内  
海上保安部



第一管区  
海上保安本部

木彫りの熊と  
「うみまる」

第一管区  
海上保安本部

クラーク博士に  
扮した  
「うみまる」



### うみまる & うーみん プロフィール

海上保安庁のイメージキャラクターとして活躍しています。タテゴトアザラシの子どもがモチーフ。1998年(平成10年)に「うみまる」誕生。「うーみん」は「うみまる」の妹。

	うみまる	うーみん
誕生日	H10年4月10日	H14年5月12日
階級	二等海上保安正	三等海上保安正
身長	約2m	1m85cm



海上保安庁のイメージキャラクター「うみまる」・「うーみん」は、  
管区バージョンやご当地バージョンがあり、各地域で活躍しています。  
今号より、各管区海上保安本部や海上保安部バージョンの「うみまる」・「うーみん」を紹介していきます。  
各地域の独自色を活かした「うみまる」・「うーみん」が登場します。お楽しみに。

**えんぶり**  
「うみまる」「うーみん」  
※えんぶり=八戸地方の民俗芸能

八戸  
海上保安部

ねぶた祭り  
「うみまる」

第二管区  
海上保安本部

第二管区  
海上保安本部

なまはげ  
「うみまる」

第二管区  
海上保安本部

伊達政宗  
「うみまる」

第二管区  
海上保安本部

フラガール  
「うーみん」

福島  
海上保安部

相馬野馬追  
「うみまる」

福島  
海上保安部

青森海上保安部  
青森

八戸海上保安部

青森県

秋田県

秋田海上保安部

岩手県

盛岡

宮古海上保安署

釜石海上保安部

宮城県

第二管区海上保安本部

石巻海上保安署

宮城海上保安部

仙台

仙台航空基地

山形県

山形

酒田海上保安部

気仙沼海上保安署

福島県

福島

福島海上保安部

野口英世に  
扮した  
「うみまる」

福島  
海上保安部

JCG  
相馬野馬追

118

# NEWS FLASH



## 初任者捜査実務訓練

12月11～14日・第六管区海上保安本部



## 姫路海上保安部、兵庫県警察、神戸税関、大阪入国管理局による外国船への合同立入検査

12月10日・姫路海上保安部



## 巡視船を使用した携帯電話基地局の現地試験に協力

11月26～29日・第六管区海上保安本部



## 平成25年田辺市消防出初式に巡視船が参加

1月5日・田辺海上保安部



## 平成25年 巡視船「たかとり」訓練初め

1月4日・横須賀海上保安部



## 海上自衛隊との合同救助訓練

12月25日・第三管区海上保安本部



## 平成25年最初の海水観測

1月8日・紋別海上保安部巡視船そらち



## イルカの大群約300頭に遭遇

1月5日・対馬海上保安部巡視船あさじ



## 平成25年 巡視船「やまくに」訓練始め

1月11日・大分海上保安部巡視船やまくに



## 田子の浦港西防波堤灯台の光源をLED化

1月10日・清水海上保安部



**宮城県金華山の沖、約2,400kmの海上で海難救助**

11月30日・函館海上保安部巡視船つがる



**35年間の激務、お疲れさま 巡視艇「みのお」解役式**

1月11日・大分海上保安部



**神戸市の親善大使「スマイル神戸」が一日海上保安官**

1月18日・第五管区海上保安本部



**118番トレイン運行**

清水海上保安部



**新潟県警察のマスコットキャラクターと緊急通報用電話番号の周知活動**

1月12、13日・第九管区海上保安本部



**EXILE MATSUさん「一日海上保安部長」に任命**

1月18日・東京海上保安部



**ゴマフアザラシが一日海上保安官**

1月18日・紋別海上保安部



**銚子PRマスコット「ちょーぴー」と118番周知活動**

1月18日・銚子海上保安部



**電子海図の基準に関する国際会議を開催**

1月15～18日・海上保安庁海洋情報部



**広報グッズ 潜水服型携帯ストラップの作成**

第六管区海上保安本部



**アイスクャンドルで118番をPR!**

1月17、18日・紋別海上保安部

# INFORMATION

## 大切な命！自分で守る

～海上保安庁からのお願い～

マリレジャーを安全に楽しむために、事前に海の気象情報・安全情報を収集し、  
もしもに備えて、自己救命策3つの基本を守りましょう！

### 自己救命策 **3** つの基本

1



海に落ちても沈まない  
**ライフジャケットの着用**

2



水中でも大丈夫(防水パックの使用)  
**携帯電話の携行**

3



海のもしもは……  
**118番の活用**

## 海上保安大学校・海上保安学校採用試験

海上保安庁では、当庁の職員の養成機関である海上保安大学校及び海上保安学校の学生を募集しています。試験は、高等学校等卒業者を対象に行われます。試験の日程については、下記のとおりです。詳しくは、最寄りの海上保安本部または海上保安庁総務部教育訓練管理官付学校教育係(☎03-3580-0936)までお気軽にお問い合わせください。



### 平成25年度採用試験日程



#### 海上保安大学校

##### 海上保安大学校 学生採用試験

【受付期間】〈インターネット〉平成25年8月29日～9月9日  
〈郵送・持参〉平成25年8月29日～9月6日  
【第一次試験】11月2日、3日  
【海上保安大学校HP】<http://www.jcga.ac.jp/>



#### 海上保安学校

##### 海上保安学校 学生採用試験

<b>海上保安学校学生採用試験</b> 【受付期間】 〈インターネット〉平成25年7月23日～8月1日 〈郵送・持参〉平成25年7月23日～7月31日 【第一次試験】9月29日 【海上保安学校HP】 <a href="http://www.kaiho.mlit.go.jp/school/">http://www.kaiho.mlit.go.jp/school/</a>	<b>海上保安学校学生採用試験(特別)</b> 【受付期間】 〈インターネット〉平成25年4月1日～4月8日 〈郵送・持参〉平成25年4月1日～4月5日 【第一次試験】5月19日
--	---

学生採用試験HP <http://www.kaiho.mlit.go.jp/saiyou/bosyu/index.html>



かいほジャーナル54号

平成25年3月15日発行

編集・発行：海上保安庁 政策評価広報室

本誌掲載の写真、イラスト及び記事の無断転載を禁じます。

海上保安庁  
JAPAN COAST GUARD

海のもしもは**118番**